

令和3年4月2日

京口門だより No.90

4月の声を聞くと、桜も満開から散り始め、入社式や入学式と新しい年度が始まります。新型コロナウイルスはまた新たな局面をむかえ、人の動きと連動して勢いをつけてくる気配です。変異株も増加しています。1年以上感染予防に努めてきた私たちもいささか疲れ気味ですが、ここで諦めるわけにはいきません。必ず克服しなければなりません。

ところで、今回は最近よく耳にする咳喘息という病気について触れてみたいと思います。咳喘息とは喘鳴(ヒューヒュー、ゼイゼイ)や呼吸困難(息苦しさ)を伴わない咳が、2ヶ月以上続くような慢性の咳を指しています。夜間から早朝にかけて起こりやすく、気候の変化、冷氣、喫煙、運動、飲酒などで悪化しやすいと言われます。2割から3割のひとが本格的な喘息に変わりやすいとされています。気道の過敏性やアトピー素因がみられると言われます。ただアトピー咳嗽というよく似た病気もあり、これは喘息に移行することはないとされています。また風邪などをひいた後、同じように長く咳が続く状態もあり、感染後咳嗽という名前がつけられますが、なかなかこれらは区別しにくい病気です。また咽の奥に鼻汁がおりてくる慢性副鼻腔炎(蓄膿症)に伴う長引く咳もあり、区別が難しい場合もあります。

咳喘息が治りにくい場合には、しばしば吸入ステロイドが処方されます。早く治まるのですが、いつまでも使い続けることはいろいろな弊害が起こりやすく、現代医学でも咳が十分収まるのをみて、ゆっくりと減量して止めてゆくように指導することになっています。しかし、実際は漫然と使いつづけられていることが多く、老年になっても使い続け、やめられない人もおられます。前にも申しましたがステロイドという薬は、吸入にせよ飲み薬にせよ、長期に使用すると反って弊害が起きてきます。喘息以外の病気でもステロイドはあまり長く使わないのが原則です(特殊な病気は例外ですが)。

われわれ漢方をやっている者からは、咳喘息およびそれに類似する慢性化した咳には、さまざまな咳治療の漢方薬があり、その人の咳に応じた漢方薬を選んで使うことによって、咳を長引かせたり、喘息に移行することのないようにできると思います。吸入ステロイドなどを使う前に、漢方治療をぜひ選んで治療していただきたいと思います。

